

愛知特別支援教育研究会会報 第10号

事務局：愛知県立大学 田中良三研究室 〒480-1198 愛知県長久手町熊張

☎ 0561-64-1111 <内線>1504 tanaka@lit.aichi-pu.ac.jp

愛知特別支援教育研究会 H23 第4回フォーラム 特集

11月26日(土)名城大学において、4度目のフォーラムを開くことができました。学芸会シーズンでもあり、参加できなかった方もお見えになったと思いますが、一般の方の参加を含めて、58名の参加がありました。今回はシンポジウムのみで、愛知の就労支援の現状について立場の異なる4人の方のお話をお聞きしました。また、その後の意見交換では、会場からの質問が出されて予定時間いっぱい、熱のこもった話が続きました。会員の皆様の多くは現場の教員です。発達障害児の就労を見すえた支援について、新たな情報を得ることが出来た貴重な時間であったと思います。ぜひ、今後の指導・支援に生かしていただきたいと思います

愛知特別支援教育研究会第4回フォーラムによせて



会長 神谷 育司

フォーラムの内容・討論の主題は“発達障害児・者の自立を見すえた就労”の課題でした。4人の演者は各自の立場から自立・支援にいかに取り組んでいるか、その実践の様相について、その取組の姿を開陳されていた。

その主要な課題の一つは就労に至るまでの道筋としてキャリア発達に関する課題と、さらに、就労という現実的な課題に対してどのように取り組んでいるかについてその実情を述べられた。

前者は学校教育に関わる課題であり、後者の就労は社会的な行政、特に、厚生・労働行政に関わる課題として捉えられます。この後者の課題については川村さんから発達障害児の就労の事態と支援について含蓄ある内容が提起された。その要点は発達障害者が就労に際して直面する課題は発達障害者の行動傾向としての意志疎通・コミュニケーションの問題から対人関係に齟齬を着たすことが往々にして見られ、結果として就労を困難にし、就労したとしても離職という状況に陥る可能性が想定されるとのことであった。

予測されるこの問題には、職業準備支援とか、ジョブコーチの制度が導入されており、豊田高等養護の中川さん、さらには自立支援センターの谷口さんから状況についての説明がなされた。多久島さんはLD親の会のリーダーとして、また、ご自身が親の立場として就労支援に取り組んでいるか体験を交え、就労にたどり着く道のりの険しさと困難をいかに乗り越えていくかについて吐露していた。

就労への準備性、それはまさしく、キャリア発達、ひいてはキャリア形成という育的問題です。一人ひとりの生き方に関わる自己と働くこととの関係づけや価値づけを支援するかがキャリア教育であり、発達障害児とキャリア形成の課題は発達段階に対応した系統的な個別の支援計画や移行計画の立案とその実践が不可欠です。今回のフォーラムは特別支援教育に携わる私どもに新たに視点を与えてくれました。教育現場の中で発達障害児のキャリア形成に関わる必要性が強く要請されます。幼児期からのキャリア教育を通して育成すべき基礎的・汎用的能力について、社会人として、職業人としてのキャリア形成の機能が課題となります。

シンポジウム ～演題「愛知の就労支援・それぞれの現場から

— 発達障害児・者の自立を見すえた支援とは —

話題提供

- ① 愛知障害者職業センター 川村 浩樹氏
- ② 豊田高等養護学校 中川 恵乃久氏
- ③ LD親の会「かたつむり」 多久島 陸美氏
- ④ 自立支援センター「るっく」 谷口 幸子氏

指定討論

名城大学名誉顧問 研究会長 神谷 育司

1 職業準備性についての系統的な取り組みのあり方

- ・ 職場の「ほう・れん・そう」を「誰に、どのように、どのタイミングで」を身に付けることが大切。
- ・ 集中性、正確性、能率性を伸ばすことが求められる。
- ・ 得意不得意の自己理解を深め、基本から現実へ、譲れるところと譲れないところの折り合いをつける術が必要である。
- ・ タテ、ヨコの支援をつないでいくのが保護者の役目である。
- ・ 早期支援が大切。支援や手立てを具体的に考えていくこと。
- ・ SST を公的に受けられるところがないので、自分たちで立ち上げた。
- ・ 自称でもジョブコーチはできるが、なかった自分たちで立ち上げた。
- ・ 「障害者ではない。」と拒絶し、先送りすることは困難な状況を深刻化させる。



2 ジョブコーチ制度について愛知障害者支援センターには国の制度に沿ったコーチがいる

- ・ 職場では就労して最初のうちは「思ったよりできる」という反応だが、しばらくするとまわりが戸惑うようになる。ジョブコーチはまわりで働く人の話を聞くことが大切である。
- ・ 仕事はできても、環境へのこだわりがある。高等部3年生で実習するときは、企業から採用後ジョブコーチの要請がある場合もある。学校側から提案することもある。

3 学校教育における発達障害児へのキャリア教育プログラムの必要性について

- ・ 低学年での「お手伝い」から委員会活動等を経て、役に立つことの喜びを体験させていくことが、発達障害児には意図的に必要である。般化の意識が大切である。
- ・ 子どもについてそれぞれの立場からの情報をつないでイメージしていくようにする。また、子ども自身が社会に対し良いイメージが持てるようにしながら多く体験できるようにする。
- ・ 家庭で見ている姿と学校・職場での姿は異なるので、親にも子どもの課題が見えるようにして欲しい。また、事例や制度についての情報が多く欲しい。親の会のネットワークがありがたかった。
- ・ 子どもはどうしても失敗を恐れる。成功体験が無く、就労のイメージがない。

4 質疑応答

- ・ 「高等養護での作業学習の意義」→必ずしも作業内容と職業はつながらず、理念の定着を目標としている。
- ・ 「離職後の対応」→会社の理解が足りないことが以前は多かったが、現在は不応が多い。特性を次の仕事にかなげること、転職がプラスの結果となるようにすることが大切である。
- ・ 小学生のうちにより青年期のイメージをもつことが大切である。

☆☆

LD学会近況報告

副会長 田中良三(愛知県立大学)

昨年度の日本LD学会第19回大会は、本会員のみなさんの多大なご協力によって、学会史上、最高の発表数と参加者数(2,600人、3日間延べ6,000人)を記録するとともに、多くの参加者のみなさんから沢山のお褒めの言葉をいただくことができました。早いもので、あれから1年以上が経ちました。今年の第20回大会は、筑波大学関係者によって跡見学園女子大学(東京・文京区)で開催されました。今年も、沢山の発表と参加者がありましたが、昨年を超える規模にはならなかったように思います

本研究会では、ここ毎回、愛知の特別支援教育について自主シンポジウムを開催してきました。今回は、テーマ：愛知における特別支援教育の展開と課題、企画者：岡本史恵(常滑東小学校)、司会者：神谷育司(名城大学名誉教授)、話題提供者：神谷育司、岡本史恵(常滑東小学校)、大島光代(筑波大学附属聴覚特別支援学校)、守谷泰弘(愛知少年院)、指定討論者：田中良三(愛知県立大学)でした。

また、愛知県立大学生涯発達研究所では、愛知県総合教育センターと共同研究を行っていますが、そのメンバーでポスター発表を行いました。題目：「愛知県立大学における発達障がい児支援スクールボランティアの派遣・養成」、発表者：田中良三(愛知県立大学)・山本理絵(愛知県立大学)・神田正美(元愛知県総合教育センター、大府養護学校)・大脇千尋(愛知県総合教育センター)です。

来年度の21回大会は、10月6日～8日、仙台国際センターで開催されます。来年度も、会員のみなさんから、自主シンポジウムの話題提供者を募り、愛知からも発信していきたいと思っております。また、他にも会員のみなさんは、積極的に個人で、また、グループで自主シンポジウムやポスター発表をしていきましょう。そして、愛知の特別支援教育の実践と理論の水準を高めていこうではありませんか。